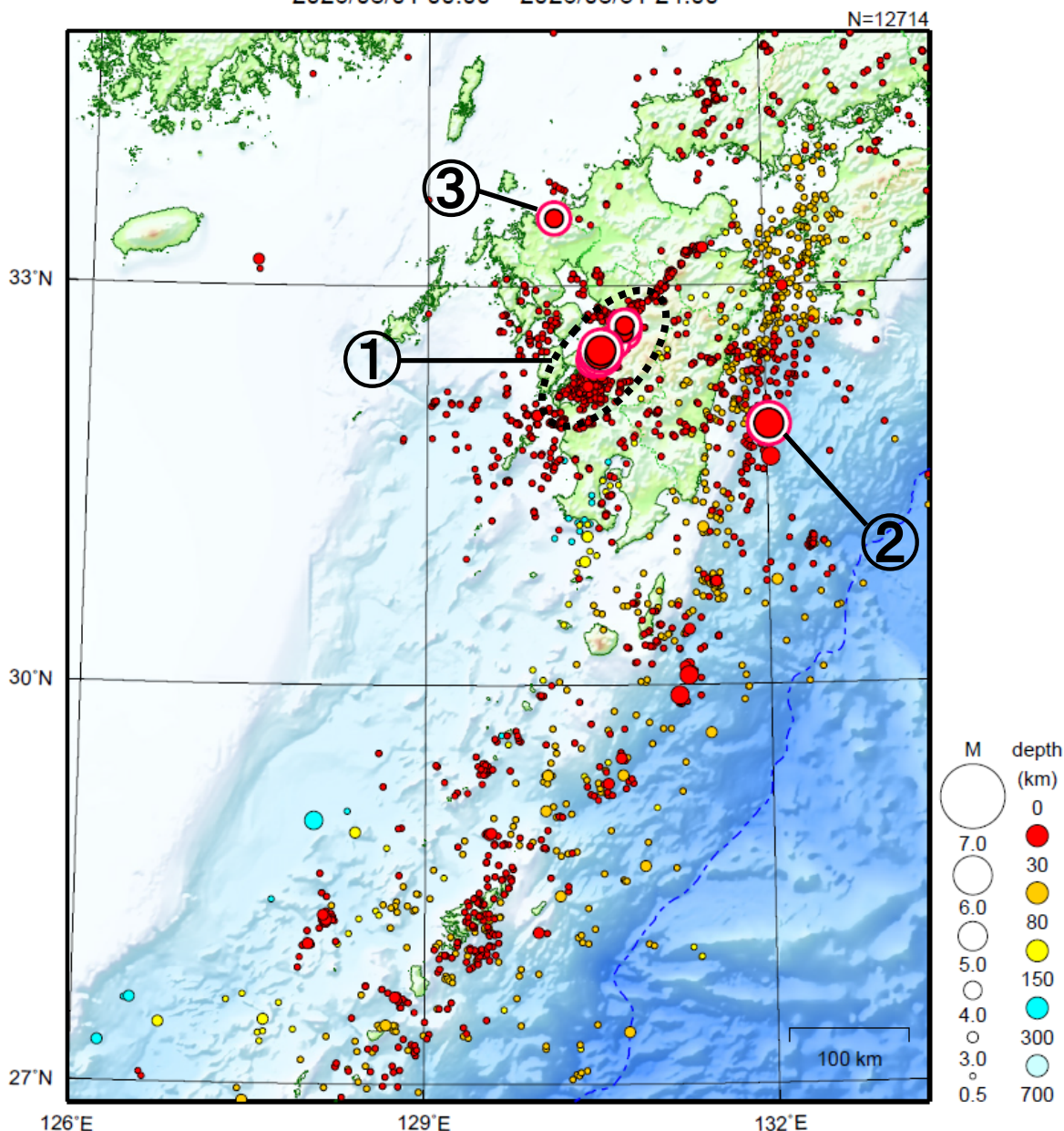


九州地方

2026/08/01 00:00 ~ 2026/08/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 「令和 8 年熊本地震」の地震活動域では、8 月中に震度 1 以上を観測した地震が 301 回（震度 5 弱：1 回、震度 4：6 回、震度 3：22 回、震度 2：56 回、震度 1：216 回）
（注） 発生した。このうち最大規模の地震は、6 日に発生した M5.1 の地震（最大震度 4）である。
- ② 8 月 2 日に日向灘で M5.3 の地震（最大震度 3）が発生した。
- ③ 8 月 17 日に福岡県福岡地方で M4.2 の地震（最大震度 4）が発生した。

（注）掲載している地震回数は、後日の調査でさらに変更になることがある。

〔上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。〕

気象庁・文部科学省

「令和 8 年熊本地震」の地震活動

2026年 7 月28日16時27分に熊本県熊本地方の深さ16kmでM7.1の地震（最大震度 7）が発生した。この地震の後、今回の地震活動域では、地震活動が活発となった。

今回の地震活動域は、北東－南西に伸びる50km程度の範囲に広がっている。8 月末現在、この領域の地震活動は、地震の発生数は平常時と比べて多い状態が継続しているが、大局的には緩やかに減少している。

今回の地震活動域付近では 8 月に震度 1 以上を観測した地震が、301回（震度 5 弱：1 回、震度 4：6 回、震度 3：22回、震度 2：56回、震度 1：216回）^(注)発生した。8 月に発生した最大規模の地震は、6 日07時59分に発生したM5.1の地震（深さ12km、最大震度 4）である。この地震の発震機構（CMT解）は北北西－南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。また、8 月に最大震度を観測した地震は 1 日21時47分に発生したM4.7の地震（深さ11km、最大震度 5 弱）である。これらの地震は地殻内で発生した。

今回の地震活動により、死者38人（災害関連死の可能性のある死者を含む）、負傷者368人、住家全壊 1,796棟、半壊3,457棟などの被害が生じた（被害は2026年 8 月31日17時00分現在、総務省消防庁による）。

（注）掲載している地震回数は、後日の調査でさらに変更になることがある。

表 「令和 8 年熊本地震」による被害状況
（令和 8 年 8 月 31 日 17 時 00 分現在、総務省消防庁による）

都道府県	人的被害					住家被害			
	死者※	負傷者			合計	全壊	半壊	一部破損	合計
		重傷	軽傷等	小計					
		人	人	人		棟	棟	棟	棟
福岡県		1	1	2	2			8	8
熊本県	38	33	331	364	402	1,796	3,457	30,985	36,238
大分県			1	1	1				
鹿児島県			1	1	1				
合 計	38	34	334	368	406	1,796	3,457	30,993	36,246

※災害による負傷の悪化又は身体的負担による疾病により死亡した可能性のある死者 2 人を含む

2000年10月以降の活動を見ると、今回の地震活動域の周辺（領域a）では「平成28年（2016年）熊本地震」が発生している。「平成28年（2016年）熊本地震」では、熊本県で死者275人、大分県で死者3人などの被害が生じた（熊本県は2025年4月11日現在、熊本県による、その他は2019年4月12日現在、総務省消防庁による）。

震央分布図

(2000年10月1日～2026年8月31日)

深さ0～20km、 $M \geq 2.0$

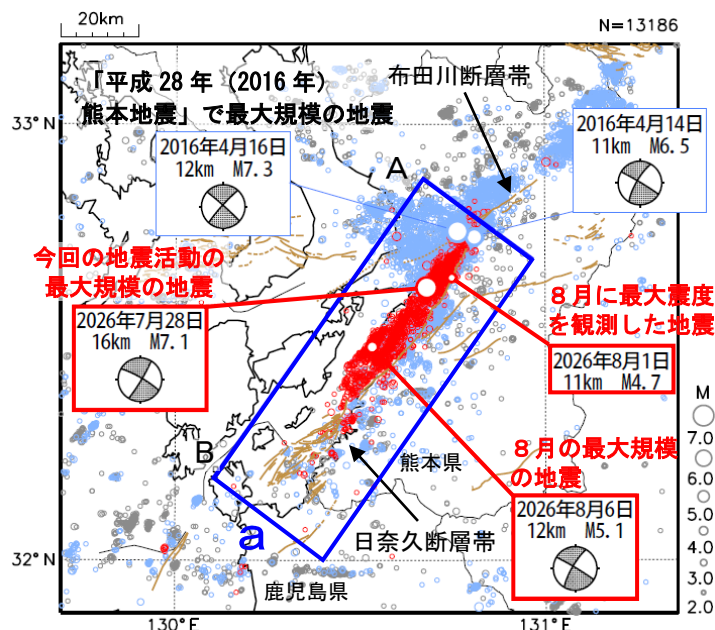
2016年4月14日21時より前に発生した地震を灰色○

2016年4月14日21時以降の地震を水色○、

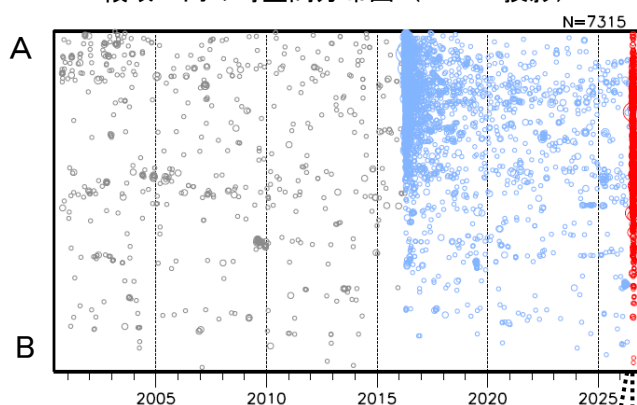
2026年7月28日16時以降の地震を赤色○で表示

茶色の実線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す

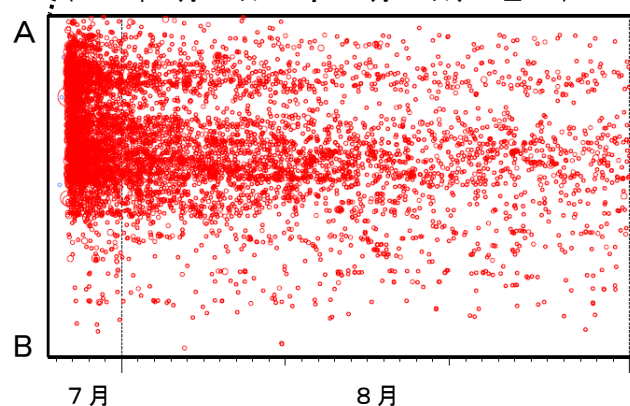
図中の発震機構はCMT解



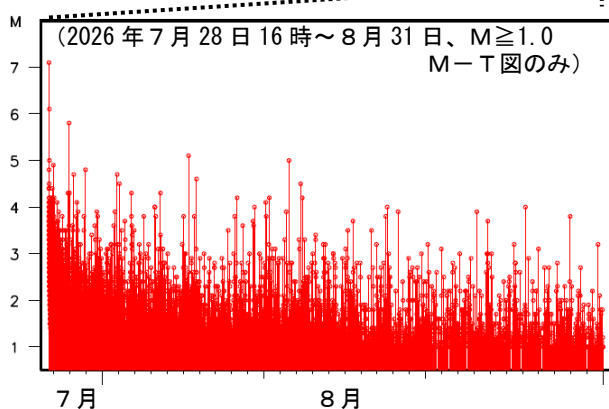
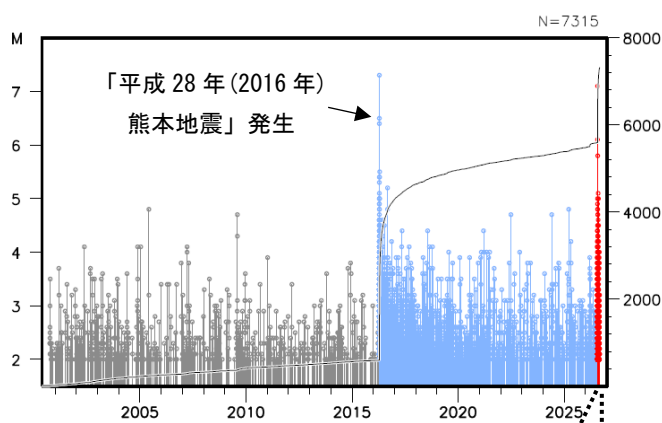
領域a内の時空間分布図（A－B投影）



(2026年7月28日16時～8月31日、 $M \geq 1.0$)



領域a内のM－T図及び回数積算図



震央分布図

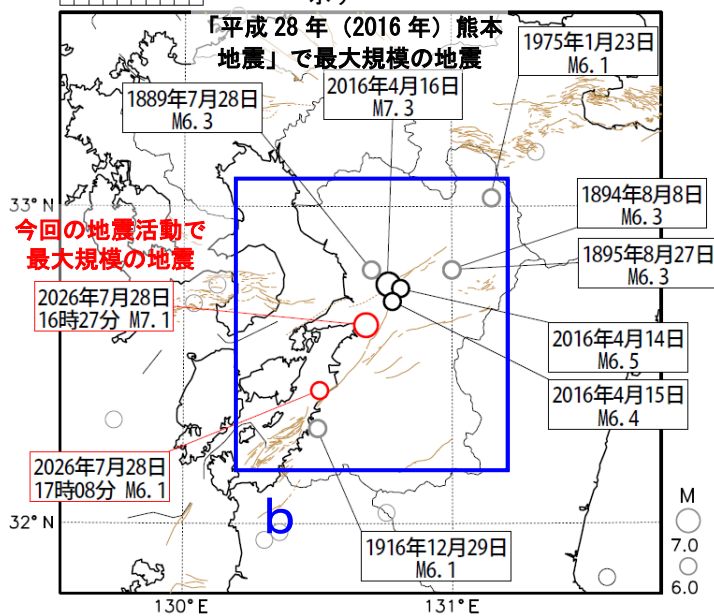
(1885 年 1 月 1 日～2026 年 8 月 31 日、
深さ 0 ～50km、 $M \geq 6.0$)

2016 年 4 月 14 日 21 時より前に発生した地震を灰色○

2016 年 4 月 14 日 21 時以降に発生した地震を黒色○、

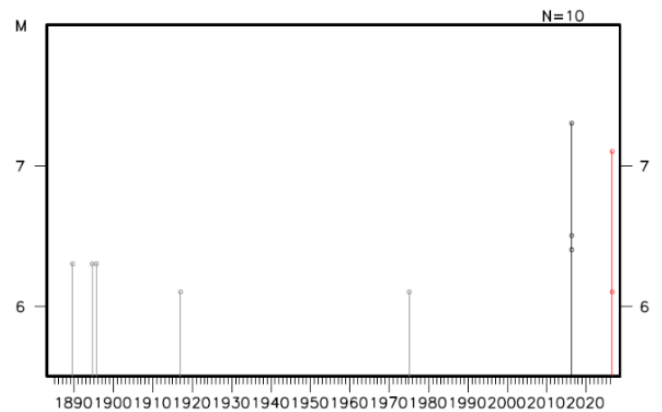
2026 年 7 月 28 日 16 時以降に発生した地震を赤色○で表示

茶色の実線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す



1885 年以降の活動をみると、今回の地震活動域の周辺（領域 b）では $M6.0$ 以上の地震が今回の地震活動を含めて 10 回発生している。1889 年 7 月 28 日に発生した $M6.3$ の地震により、死者 19 人、負傷者 53 人、家屋全倒 234 棟などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

領域 b 内の M-T 図



(震源要素は、1885 年～1918 年は茅野・宇津 (2001)、宇津 (1982, 1985) による※)

※宇津徳治 (1982)：日本付近の $M6.0$ 以上の地震および被害地震の表：1885 年～1980 年、震研彙報、57、401-463。

宇津徳治 (1985)：日本付近の $M6.0$ 以上の地震および被害地震の表：1885 年～1980 年（訂正と追加）、震研彙報、60、639-642。

茅野一郎・宇津徳治 (2001)：日本の主な地震の表、「地震の事典」第 2 版、朝倉書店、657pp。

地震の概要

検知時刻 (最初に地震を検知した時刻)	7月28日16時27分
発生時刻 (地震が発生した時刻)	7月28日16時27分
マグニチュード	7.1 (暫定値)
発生場所	熊本県熊本地方 深さ16km (暫定値)
発震機構	北北西－南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で、地殻内で発生した地震
震度	【最大震度7】 熊本県の宇城市(うきし)・氷川町(ひかわちょう)で震度7を観測したほか、中部地方から九州地方にかけて震度6強～1を観測
地震活動の状況 9月8日09時00分現在	今回の地震発生後、震度1以上を観測した地震が754回発生 (震度5弱：5回 震度4：23回 震度3：72回 震度2：180回 震度1：474回)
長周期地震動の観測状況	熊本県熊本で長周期地震動階級4を観測

防災上の留意事項

【令和8年熊本地震の地震活動の概況】

- ・ 地震の発生数は平常時と比べて多い状態が継続しているが、大局的には緩やかに減少

【M7.1の地震による揺れが強かった地域】

- ・ やむを得ない事情が無い限り危険な場所に立ち入らない
- ・ 復旧活動などを行う場合には今後の地震活動や気象の状況に十分注意

日頃からの地震への備えを

令和8年熊本地震の地震活動の今後の見通し

【地震活動の今後の見通し】

- M7.1の地震で揺れの強かった地域では、
今後2週間程度、最大震度5弱程度以上の地震に注意※
※想定される地震の発生頻度は月に1～2回程度
- なお、最大震度5強程度以上の地震についても、平常時と比べると依然として発生しやすい状況
- 地震活動域は広範囲であり、地震の規模や震源との位置関係によってはM7.1の地震による揺れよりも強く揺れる可能性
- 海底で規模の大きな地震が発生した場合、津波に注意

周辺の活断層

今回の地震の震源周辺には、布田川（ふたがわ）断層帯・日奈久（ひなぐ）断層帯が存在します。

なお、地震調査研究推進本部地震調査委員会では、「M7.1の震源断層の主たる部分は、日奈久断層帯の高野ー白旗区間の一部及び日奈久区間の北東部に及んでいると考えられる。」と評価（※）しています。

（※）令和8年熊本地震の評価（令和8年8月12日公表）

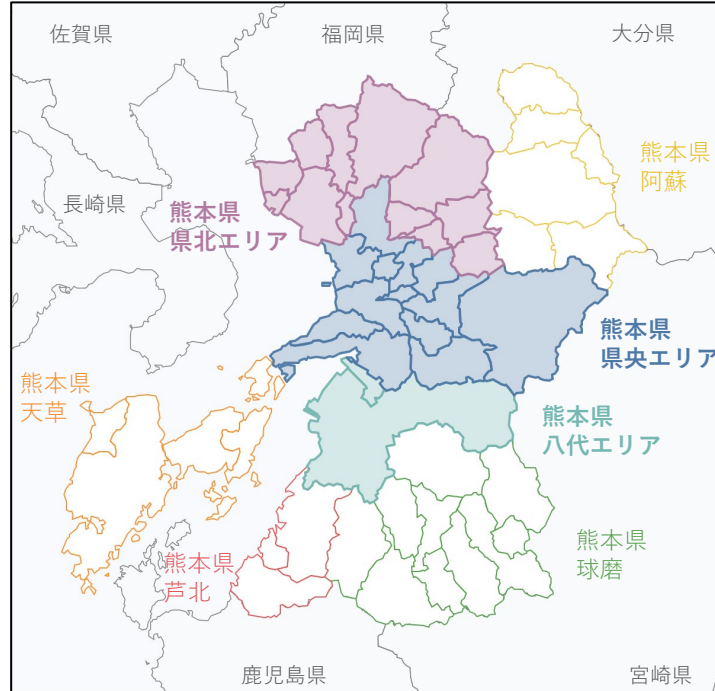
https://www.static.jishin.go.jp/resource/monthly/2026/20260728_kumamoto_2.pdf

「令和8年熊本地震」の熊本県内地域別の最大震度別地震回数

令和8年7月28日～9月7日、震度1以上の地震

※熊本県（地域別）の最大震度別地震回数

(注) 掲載している値は速報のもので、その後の調査で変更する場合があります。



熊本県 県北エリア：
荒尾市、玉名市、山鹿市、菊池市、合志市、玉東町、南関町、
長洲町、和水町、大津町、菊陽町、西原村

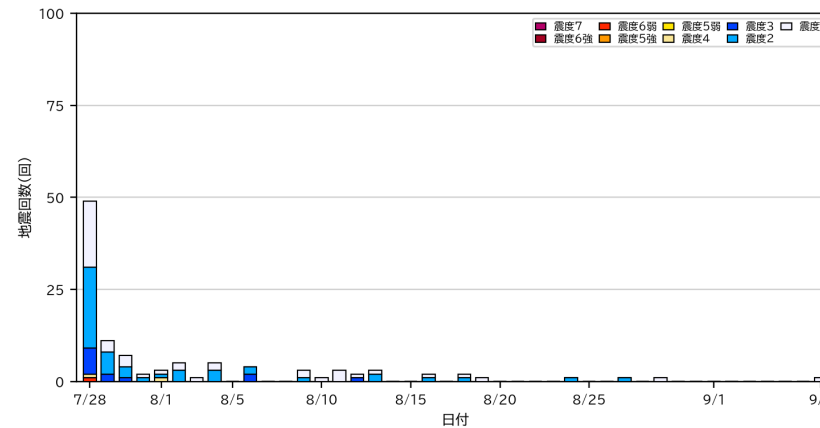
熊本県 県央エリア：
熊本市、宇土市、宇城市、美里町、御船町、嘉島町、益城町、
甲佐町、山都町

熊本県 八代エリア：
八代市、氷川町

※「熊本県熊本地方」の最大震度別地震回数を、
3つの地域に分けて表示しています。

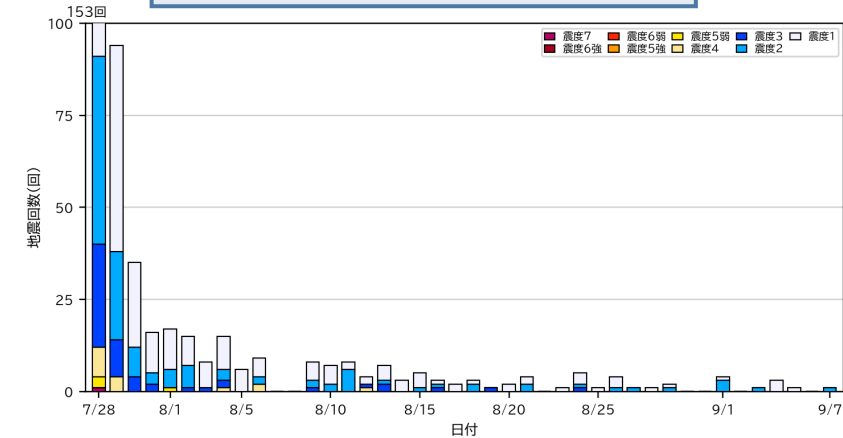
「令和8年熊本地震」の最大震度別地震回数(県北エリア)

(令和8年7月28日～9月7日(日別)、震度1以上の地震)



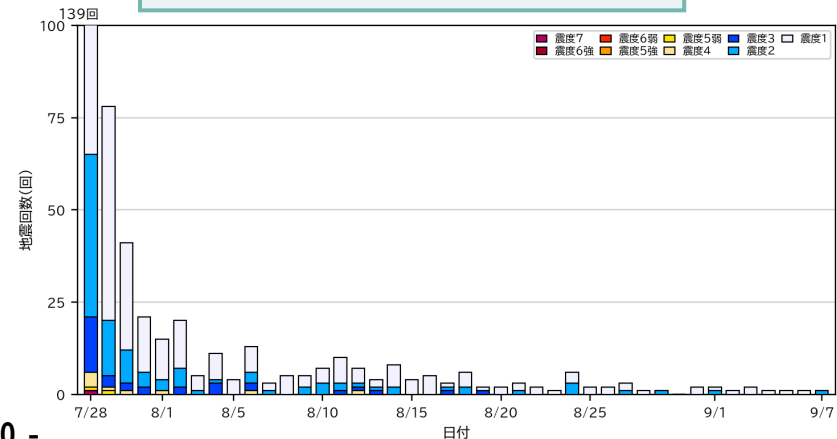
「令和8年熊本地震」の最大震度別地震回数(県央エリア)

(令和8年7月28日～9月7日(日別)、震度1以上の地震)



「令和8年熊本地震」の最大震度別地震回数(八代エリア)

(令和8年7月28日～9月7日(日別)、震度1以上の地震)

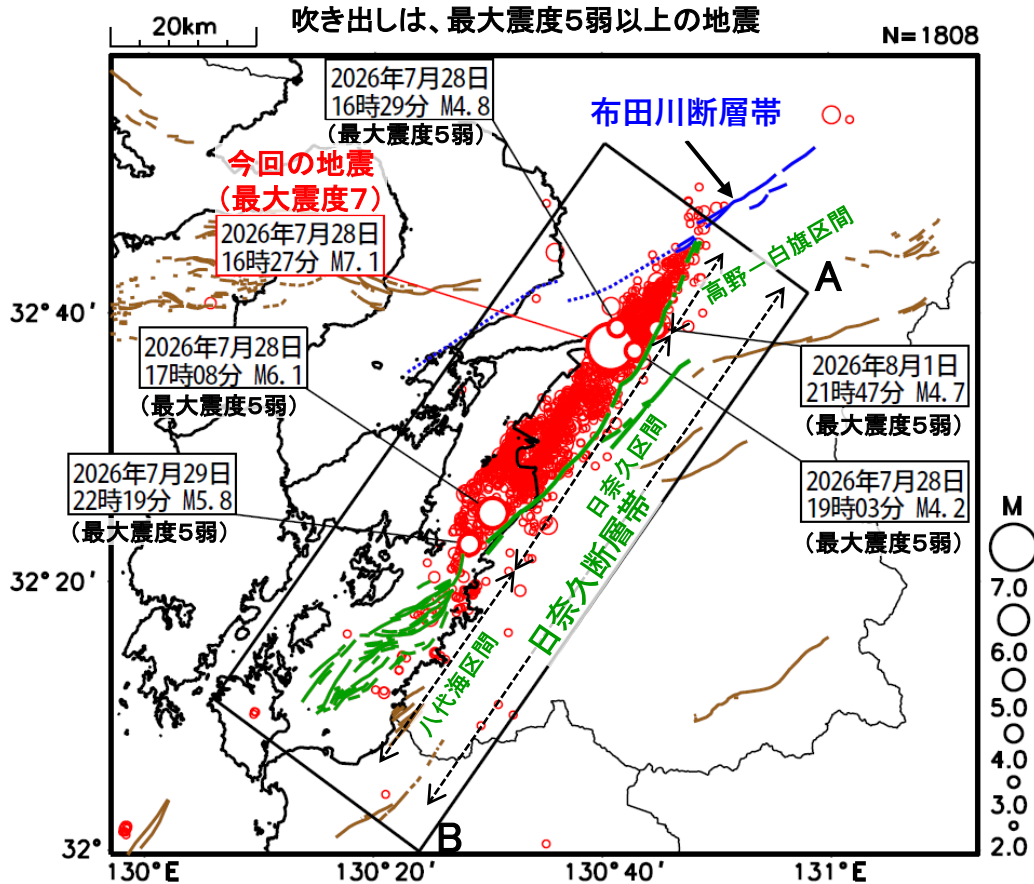


「令和8年熊本地震」の地震活動 (発生場所の詳細)

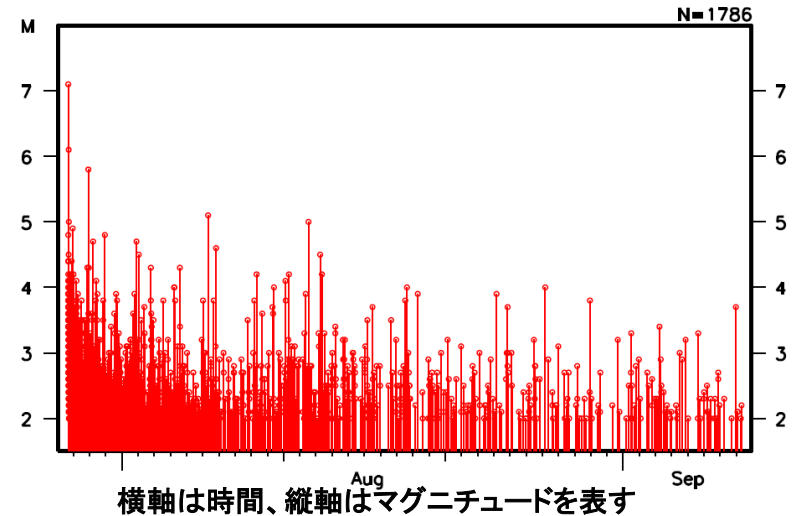
震央分布図

(2026年7月28日16時～9月8日08時00分、
深さ0～20km、M2.0以上)

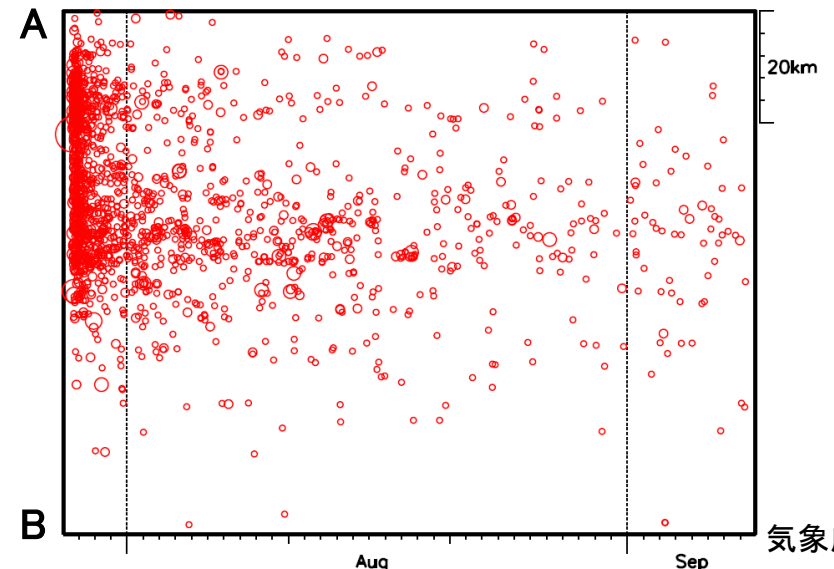
吹き出しは、最大震度5弱以上の地震



左図の四角形領域内の地震活動経過図



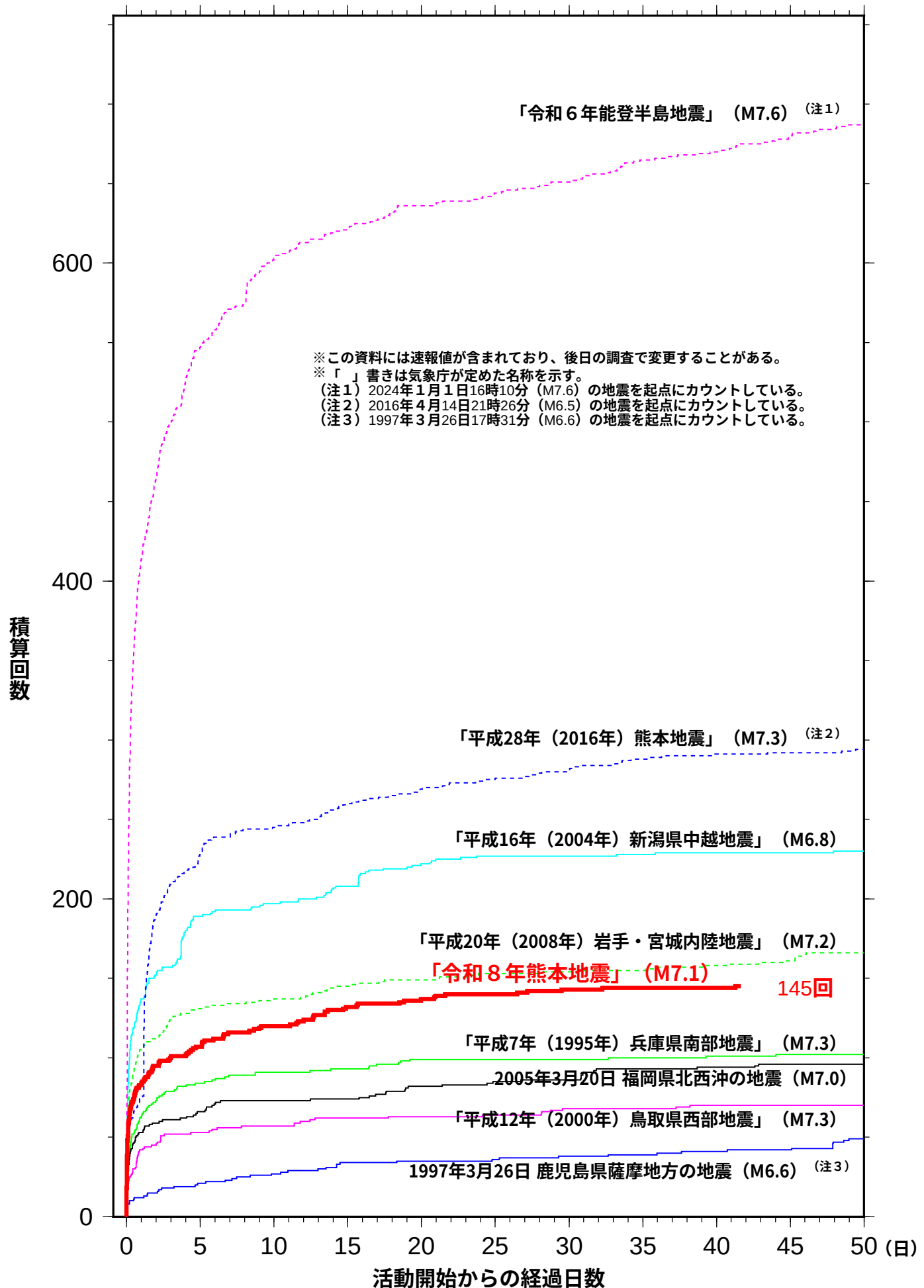
左図の四角形領域内の時空間分布図 (A-B投影)



地殻内で発生した主な地震活動の地震回数比較（マグニチュード3.5以上）

(回)

2026年09月08日08時00分現在



「令和8年熊本地震」 地震発生確率※1の状況（9月8日00時現在）

- ・ 最大震度5弱程度以上の地震の発生する可能性は依然として高い
- ・ 発生する可能性が高い期間は「2週間程度」※2
- ・ 最大震度5弱程度以上の地震の発生する可能性は7月28日のM7.1の地震発生当初に比べて1／8程度、平常時の10倍程度

地震発生確率（起点日時 9月8日00時）

確率の対象とする震度	地震発生当初との比較	平常時との比較
最大震度5弱程度以上	1／8程度	10倍程度

- 前回（9月1日）報道発表時点の地震活動の今後の見通しは「今後3～4週間程度、最大震度5弱程度以上の地震に注意」
- 最大震度5強程度以上の地震の発生確率は、最大震度5弱程度以上の発生確率と比較して低くなるものの、平常時と比べると依然として発生しやすい状況

※1 地震調査研究推進本部の報告書「大地震後の地震活動の見通しに関する情報のあり方」（2016年8月）に基づき、以下の通りとしています。

- ・ 本資料における地震発生確率とは起点日時から3日間の地震発生確率
- ・ 地震発生当初の確率は、地震発生直後から3日間の確率を計算したもの
- ・ 「地震の発生する可能性は高い」状態の判断は、1ヶ月に1回程度の発生に相当する確率値を基準

※2 この「2週間程度」で想定される地震の発生頻度は、月に1～2回程度に相当します。

「令和8年熊本地震」における震度1以上の地震の発生状況

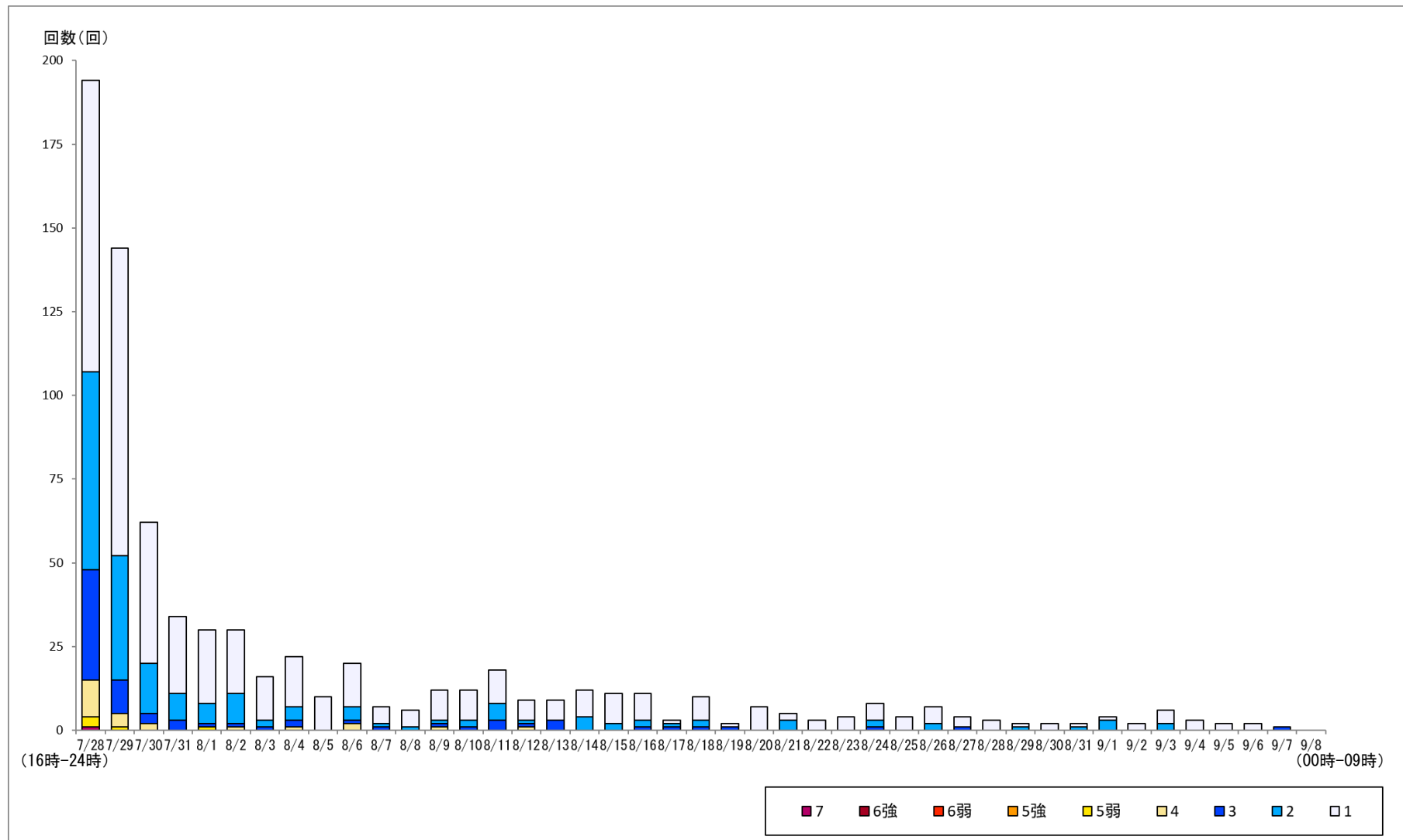
【最大震度別・日別地震回数表】
(7月28日16時～9月8日9時)

日別	最大震度別回数										震度1以上を 観測した回数		備考
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7		回数	累計	
7/28	87	59	33	11	3	0	0	0	1		194	194	16時以降
7/29	92	37	10	4	1	0	0	0	0		144	338	
7/30	42	15	3	2	0	0	0	0	0		62	400	
7/31	23	8	3	0	0	0	0	0	0		34	434	
8/1	22	6	1	0	1	0	0	0	0		30	464	
8/2	19	9	1	1	0	0	0	0	0		30	494	
8/3	13	2	1	0	0	0	0	0	0		16	510	
8/4	15	4	2	1	0	0	0	0	0		22	532	
8/5	10	0	0	0	0	0	0	0	0		10	542	
8/6	13	4	1	2	0	0	0	0	0		20	562	
8/7	5	1	1	0	0	0	0	0	0		7	569	
8/8	5	1	0	0	0	0	0	0	0		6	575	
8/9	9	1	1	1	0	0	0	0	0		12	587	
8/10	9	2	1	0	0	0	0	0	0		12	599	
8/11	10	5	3	0	0	0	0	0	0		18	617	
8/12	6	1	1	1	0	0	0	0	0		9	626	
8/13	6	0	3	0	0	0	0	0	0		9	635	
8/14	8	4	0	0	0	0	0	0	0		12	647	
8/15	9	2	0	0	0	0	0	0	0		11	658	
8/16	8	2	1	0	0	0	0	0	0		11	669	
8/17	1	1	1	0	0	0	0	0	0		3	672	
8/18	7	2	1	0	0	0	0	0	0		10	682	
8/19	1	0	1	0	0	0	0	0	0		2	684	
8/20	7	0	0	0	0	0	0	0	0		7	691	
8/21	2	3	0	0	0	0	0	0	0		5	696	
8/22	3	0	0	0	0	0	0	0	0		3	699	
8/23	4	0	0	0	0	0	0	0	0		4	703	
8/24	5	2	1	0	0	0	0	0	0		8	711	
8/25	4	0	0	0	0	0	0	0	0		4	715	
8/26	5	2	0	0	0	0	0	0	0		7	722	
8/27	3	0	1	0	0	0	0	0	0		4	726	
8/28	3	0	0	0	0	0	0	0	0		3	729	
8/29	1	1	0	0	0	0	0	0	0		2	731	
8/30	2	0	0	0	0	0	0	0	0		2	733	
8/31	1	1	0	0	0	0	0	0	0		2	735	
9/1	1	3	0	0	0	0	0	0	0		4	739	
9/2	2	0	0	0	0	0	0	0	0		2	741	
9/3	4	2	0	0	0	0	0	0	0		6	747	
9/4	3	0	0	0	0	0	0	0	0		3	750	
9/5	2	0	0	0	0	0	0	0	0		2	752	
9/6	2	0	0	0	0	0	0	0	0		2	754	
9/7	0	0	1	0	0	0	0	0	0		1	755	
9/8	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	755	9時時点
総計	474	180	72	23	5	0	0	0	1			755	

※掲載している地震回数は、後日の調査で変更になることがあります。

「令和8年熊本地震」における震度1以上の地震の発生状況

【日別地震回数図】
(7月28日16時～9月8日9時、震度1以上の地震)



※掲載している地震回数は、後日の調査で変更になることがあります。

気象庁作成

8月2日 日向灘の地震

震央分布図

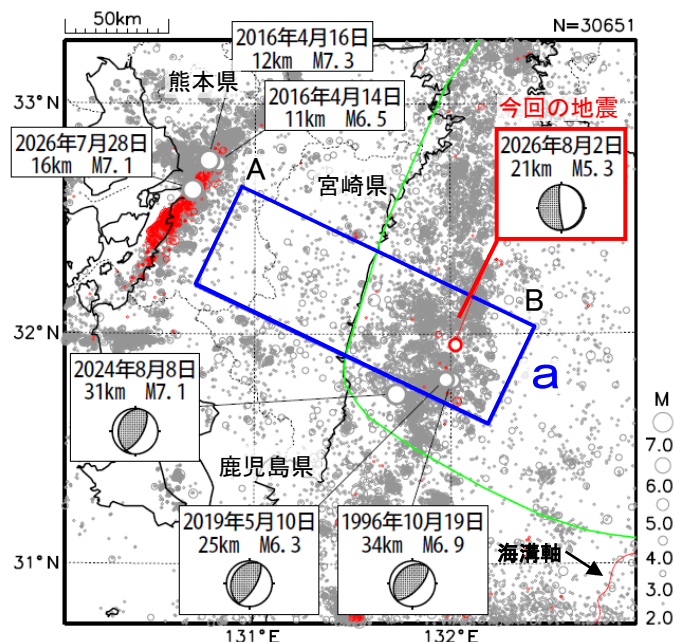
(1994年10月1日～2026年8月31日)

深さ0～100km、 $M \geq 2.0$)

2026年8月の地震を赤色○で表示

図中の発震機構はCMT解

緑色の実線は、南海トラフ巨大地震の想定震源域を示す

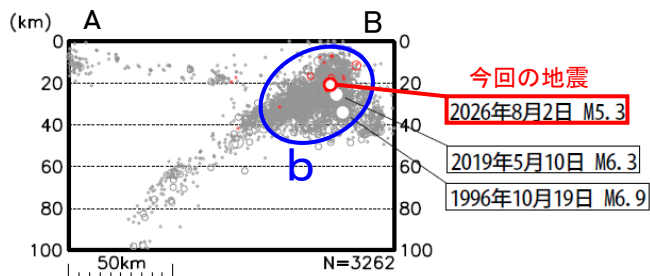


2026年8月2日04時10分に日向灘の深さ21kmでM5.3の地震 (最大震度3) が発生した。この地震は、フィリピン海プレート内部で発生した。この地震の発震機構 (CMT解) は東西方向に張力軸を持つ正断層型である。

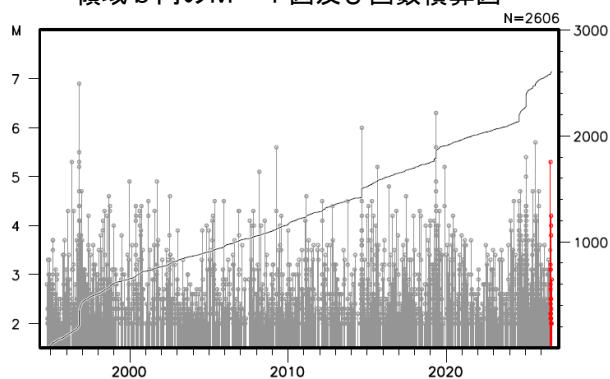
1994年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域b) ではM6.0以上の地震が2回発生している。1996年10月19日に発生したM6.9の地震 (最大震度5弱) では、高知県の室戸市室戸岬、土佐清水で14cm (平均潮位からの最大の高さ) の津波を観測するなど、四国及び九州の太平洋沿岸で津波を観測した。また、今回の地震の震央の南西約35km付近で、2024年8月8日にM7.1の地震 (最大震度6弱) が発生している。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域c) ではM6.0以上の地震が時々発生している。また、1968年4月1日に発生した「1968年日向灘地震」 (M7.5、最大震度5) では、負傷者57人、住家被害7,423棟などの被害が生じた (被害は「日本被害地震総覧」による)。この地震により、大分県の蒲江漁港で240cm (全振幅) の津波を観測するなど、太平洋沿岸を中心に関東地方から九州地方にかけて津波を観測した (「日本被害津波総覧」による)。

領域a内の断面図 (A-B投影)



領域b内のM-T図及び回数積算図



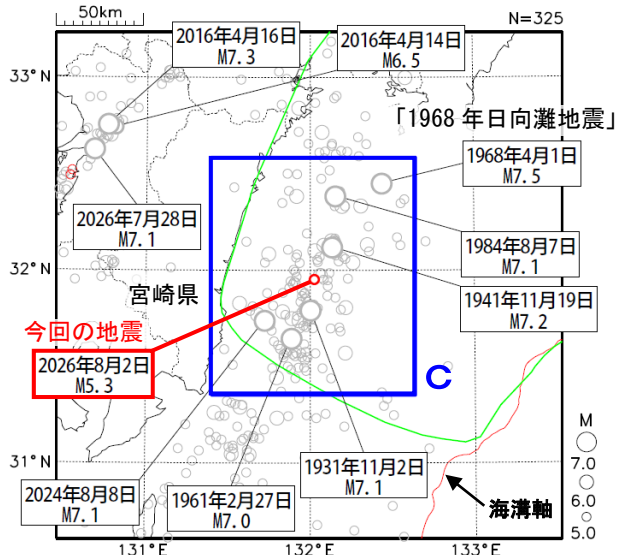
震央分布図

(1919年1月1日～2026年8月31日、

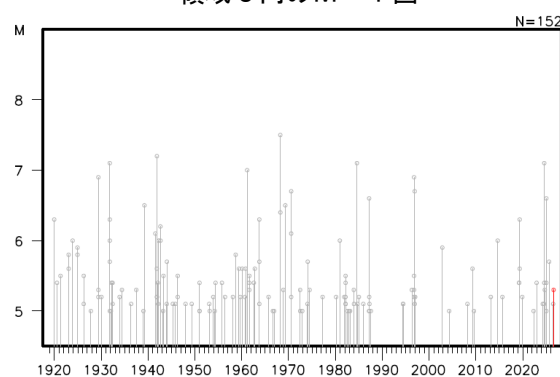
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)

2026年8月の地震を赤色○で表示

緑色の実線は、南海トラフ巨大地震の想定震源域を示す



領域c内のM-T図



気象庁作成

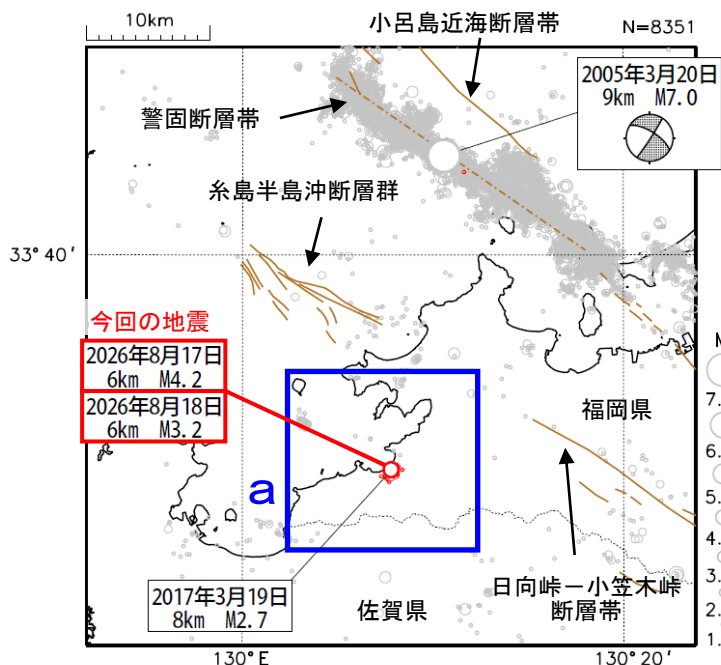
8月17日 福岡県福岡地方の地震

震央分布図

(2000年10月1日～2026年8月31日、
深さ0～20km、 $M \geq 1.0$)

2026年8月に発生した地震を赤色○で表示

茶色の実線は、地震調査研究推進本部の長期評価による
活断層を示す

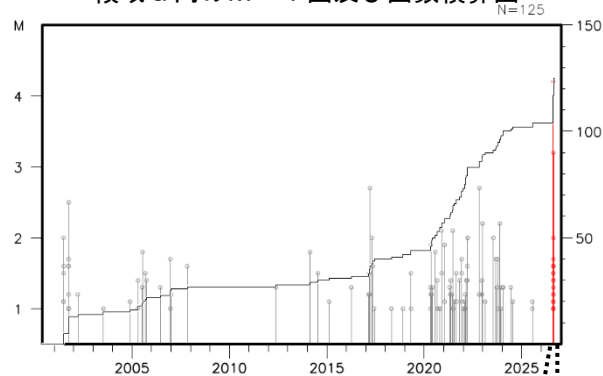


2026年8月17日06時37分に福岡県福岡地方の深さ6kmでM4.2の地震（最大震度4）が発生した。この地震は地殻内で発生した。また、18日08時21分にほぼ同じ場所の深さ6kmでM3.2の地震（最大震度2）が発生した。

2000年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域a）は、2017年3月19日にM2.7の地震（深さ8km、最大震度1）が発生するなど、M2.0以上の地震は時々発生しているが、M4.0以上の地震は発生していなかった。

1919年以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、M5.0以上の地震が8回発生している。2005年3月20日にはM7.0の地震（深さ9km、最大震度6弱）が発生し、死者1人、負傷者1,304人、住家全壊144棟などの被害が生じた（被害は2009年6月12日現在、総務省消防庁による）。

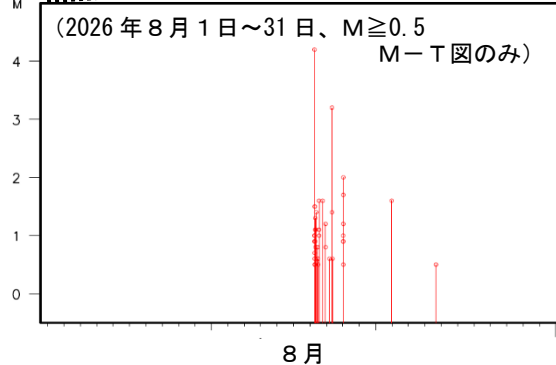
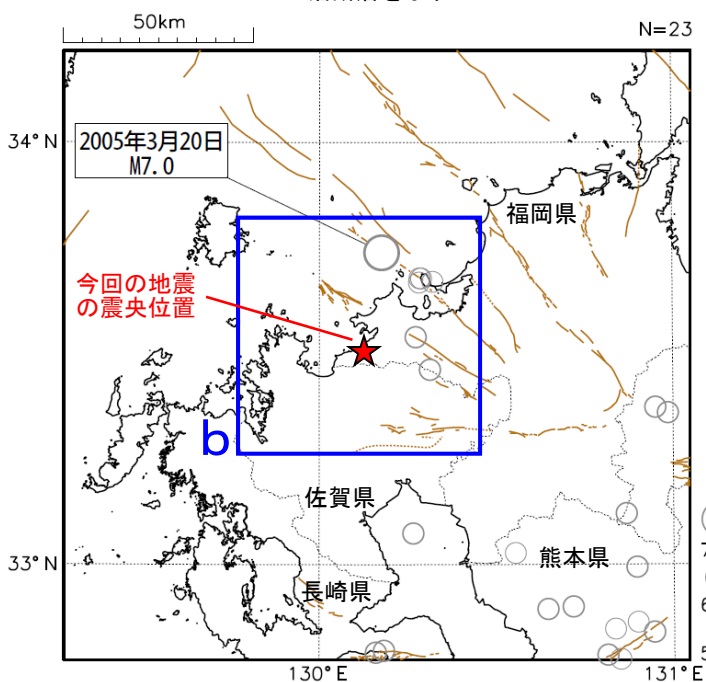
領域a内のM-T図及び回数積算図



震央分布図

(1919年1月1日～2026年8月31日、
深さ0～50km、 $M \geq 5.0$)

茶色の実線は、地震調査研究推進本部の長期評価による
活断層を示す



領域b内のM-T図

